

【一回戦】 A②

6回表終了時、時間切れ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大村市役所野球部	0	2	0	0	0	0				2
三菱重工長崎	0	0	1	6	0	X				7

開始 10:09 終了 11:42 所要 1時間33分

【二塁打】 小峰史也  
富岡壮馬、坂田竜徳

【審判】 白川 透  
藤山隆一郎  
川崎 仁  
松尾吉範

【大村市役所野球部】 打安点球

⑥ 酒井 敦勢	25	3	1	0	0
⑤ 小川 裕輔	19	2	1	0	1
⑧ 松尾 亮佑	25	3	1	0	0
③ 伊藤 拓将	21	3	0	0	0
② 小峰 史也	25	3	1	0	0
④ 中川幸太郎	25	3	0	0	0
⑦ 深田 翔夢	26	2	0	0	1
⑨ 田島 功陽	19	2	1	1	0
① 川口 隆士	36	2	1	1	0

犠0振3残5併0失7 23 6 2 2

[その他の登録選手]監督:三岳和裕(49)

小田隆介(28)、北里諒真(28)、中村稔久(33)  
池田亘利(25)、松尾直紀(42)、本村寿計(33)  
友野和成(29)、田中慎也(27)、戸嶋謙二(45)  
宮崎政義(47)

先手を取ったのは二回の大村市役所。一死後に小峰の右越え二塁打と二死後の死球で一三塁に田島の左先制打。続く川口の連安打で二走の深田が還り2点を先取した。その後、三回は先頭小川の安打や、五回は二死後に死球と松尾の安打などで二三塁の反撃機を作ったが無得点に終わった。

三菱重工長崎は初回先頭四球も二盗死。二回も先頭四球から敵失で二死一三塁を逸した。三回に敵失を足場に犠打と敵失の一三塁に富岡の左犠飛。四回には楠本の安打を間の2敵失で二死満塁の場面を作ると同点の四球押し出し後に、富岡が一掃の右越え三塁打。吉原の左タイムリー打に坂田の右線二塁打など3敵失に乗じて11人攻撃で6得点を挙げ、試合の大勢を決めた。

五回にも梅井の内野安打に稲沢の中安打と死球の二死満塁で4番の吉原を迎えたが、ここは大村市役所ベテラン投手の川口から左飛に仕留められた。

大村市役所は今大会参加の中では最も老舗のチームで天皇賜杯県大会は平成26年以来5年ぶりの参加。平成30年間で10回出場し、13年ベスト4が最高位だったが、今回は登録20人中12人の精鋭で臨み、初戦の三菱重工長崎に健闘した。

【三菱重工長崎】 打安点球

⑤ 植杉 真行	26	2	0	0	1
④ 稲澤 和也	27	3	1	1	1
③ 富岡 壮馬	28	2	1	4	1
⑧ 吉原 貴大	26	3	2	1	1
② 坂田 竜徳	28	3	1	1	0
⑥ 原 征一郎	29	2	0	0	0
⑨ 小林 陸	19	3	0	0	0
① 楠本 健次	27	3	1	0	0
⑦ 梅井 翔太	19	3	1	0	0

犠3振3残9併0失0 24 7 7 4

[その他の登録選手]監督:若松大樹(37)

大山駿(24)、山口幸(29)  
中山圭介(20)、永松孝広(31)  
山口泰樹(28)、平野靖(37)

